

第 11 章

未来への提言



「次世代の樹木医が見据える都市樹木の未来」と題して、若い世代の協会員による座談会を行いました。関東支部、関西支部、九州支部それぞれでブレインストーミング方式の座談会を行った後、3支部の代表が福岡市内に集まり、ブレインストーミングによる合同座談会が開かれました。

10年後、20年後、社会は大きく変化していると思われます。未来がどのような社会かを想像し、その時、街路樹をはじめとする都市樹木を育成するためには何が必要とされるのかなどについて話し合いました。

日 時：2022年11月11日(金) 14時～17時

会 場：リファレンス駅東（博多駅）

参加者：[関東支部] 高村聡、村田千尋

[関西支部] 石田浩之、野口よしの、堀内大樹（オンライン）

[九州支部] 岩熊直樹、能勢彩美、水野晴之

第11章 未来への提言

11-01	各支部座談会の内容	183
11-02	合同座談会	186

各支部座談会の内容

野口 ● 関西支部では、発信力、植栽基盤、維持管理手法、市民の理解、行政について、緑の見える化という課題が出され、それについての解決策を話し合いました。

関西支部	課題	問題点	解決策
	● アーバンフォレストを発信	● アーバンフォレストの価値観はまだ世の中にあまり伝わっていない。 私たち自身もあまりわからない。	● YouTube 等の SNS で発信。 ● 報道機関への積極的な働きかけ。 ● アーバンフォレストについてトヨタのウーブンシティのようなやり方で発信。 ● 海外のいろいろな事例を紹介。
	● 植栽基盤	● 植栽基盤が小さくて樹木が育たない。 ● 根が歩道を持ち上げる。	● 植栽基盤整備をした所と、していない所を比較試験した結果を伝える。 ● 植栽基盤診断の必須化。 ● 土木業者さんとの協力。
	● 維持管理手法	● 構造的剪定はあまり実践されていない。ぶつ切り剪定や主幹のトップングが結構多くある。 ● 目標樹形の共有ができていない。 ● その土地に合った樹種選択ができていない。	● 街路樹剪定士の資格等をもっと積極的に行政の方や職人さんにもとっていただく。 ● 剪定の作業員さんの講習会参加の必須化。 ● 目指す樹形の例を集めマニュアルを作成し、ホームページ等で公開する。
	● 行政の対応	● 行政には予算がない。 ● 技術者数と街路樹本数が見合っていない。 ● 維持管理コストバランスや、均一的に同一の管理をすることによる強剪定等の弊害。 ● 発注方法に問題。	● 意見を聞いたり、プロポーザルの入札方法。 ● 業者さんと施工側が密に連携し、仕様書特記の詳細な記載について働きかける。
	● 市民の理解	● 市民の苦情があると、苦情のすべてを受け入れて強剪定するようになる。	● 樹木の危険とリスクについてや、樹木の価値をもっと市民にアピール。 ● 緑を整えるのにはお金がかかることを市民にも知ってもらう。 ● 文化として、きれいな街並みが継続してあることが必要ということを市民に理解してもらう。
	● 緑の見える化	● 剪定後の評価。 ● 新しい技術をソフト面でもハード面でも評価できるような形が必要ではないか。	● i-Tree 指標を日本の中で標準化できるようにするとよい。
	将来の理想、アーバンシティ、アーバンフォレストができた場合の将来の理想像		● 価値の高い緑があることが街の魅力を高めるようになること。 ● 緑に関わる人がもっと土木と建築の人とも協力し、しかし独立的な立場で大きな役割を果たす街づくり。 ● 防災機能を発揮できる街。 ● 動物が見られたり、外に出かけたくなる街。 ● 日向を歩かなくてもいいような街ができること。

高村 ● 関東支部では、アーバンフォレスト、植栽基盤、剪定、診断の課題とそれに対する解決策を話し合いました。

関東支部	課題	問題点・解決策
	●アーバンフォレスト	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に緑に対する愛着がないと、アーバンフォレストは実現しないのでアーバンフォレストについての発信。 ●樹木の価値の見える化を図る。
	●植栽基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●植栽基盤が小さくて樹木が育たない。 ●根が歩道を持ち上げる。
	●剪定	●樹冠拡大のためにも、植栽基盤を大きく取れるようにする。ドイツでは植栽容量 12㎡となっている。日本でも樹冠を拡大していくためには大きな植栽基盤が大事になる。
	●診断	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットを使用した診断。 ●データベースを活用した診断と管理。

村田 ● 街路樹診断をしていると、住民から詰め寄られたりすることがあります。ある人は「もっと切ってくれ」、ある人は「この木を切るのか」と。やはり行政と住民のコミュニケーションの場、機会は必要だと思います。行政と業者でも、コミュニケーションをとることは必要です。そのうえで、お互いに技術を高め合えるとよいと思います。

高村 ● 「街路樹は問いかける」に、ナント市では、直営の技師が緑のパフォーマーとして、市民と緑を繋げていると書かれていて、私はナント市に行ってみたいと思いました。伝える技術者です。そういうことを行政と一緒に協働したらよいのではないかと、市民の街路樹に対する価値観が向上するようにしていっていいのではないかと。

我々の根底にある街路樹診断技術も、AIを取り入れながら最新のものにしたいです。診断のタブレット化もまさにそうです。道路工事に立ち会う業務が新しく出てきているので、そのときに各社バラバラでやるのではなくて、協会としてある程度平均して、協会員が技術を積んで、どういうメンバーが行っても、しっかり報告ができるものにする。そして、そうしたデータを今後活用していくことも必要ではないかも話し合われました。

能勢 ● 九州支部では、都市樹木の課題を四つあげています。①生態の理解、剪定技術不足。②悪い生育環境、管理情報発信不足。③防災、減災の面の浸透不足。④住民、行政の緑への理解不足について解決策を話し合いました。

九州支部	課題	問題点	解決策
	●生態の理解、剪定技術不足	●樹木の成長を見据えた植栽計画がなされていない。樹木の長期的な管理計画がなされていないために植栽樹が小さかったり、強剪定がメインになっていたり、時期の悪い剪定も多くなっているということで、樹勢が悪くなっている。	●有資格者が携わりながら、長期的な計画を立てて実行して、行政はしっかり検査を行っていくのがいいのではないかと。

課題	問題点	解決策
<ul style="list-style-type: none"> ● 悪い生育環境、管理情報の発信不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 植栽樹は植栽当初の幹周や樹高等に合わせたサイズのまま、植樹後、樹木が成長していくことをちゃんと考えられていない。小さいサイズのまま放置されている。 ● 公開空地などに街路樹を植えている所で、根上がりでタイルが持ち上がり、歩行者が躓くなどの状態になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 根を切るとか、思い切って植え替えるとか、処置が必要。 ● 植栽の段階で、根上がりしないよう植え方をもっと工夫できないか。 ● 福岡市では街路樹診断を毎年行っているが、根株診断の際に、福岡など九州北部は真砂土を中心とした土壌で、小石がゴロゴロと多く含まれているため、レジの使用が現実では難しい。これらの点についての解決策として、数十年後を見据えた植栽計画を行うこと、植栽前からこのように管理していこうとか、こういう大きさの木にしていこうとか、そういう管理計画を踏まえて、植栽基盤を整備していく必要があるのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 防災、減災の面の浸透不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災、減災、SDGs、グリーンインフラについて、いろいろな環境問題に植物、自然の力が役に立っているという話が進んでいるが、ゲリラ豪雨をどうやって街中で受け止めるかという話に終始しているようだ。 ● 福岡のみならず九州は台風が多くなっているので、台風とどうやって向き合っていくかも大きな課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 樹木の力を発揮させて、空気中への蒸散により気候変動を抑えようとするところまでは話が進んでいない。もう少し樹木に関して、市民にも、興味などをもってもらうようにしないといけない。
<ul style="list-style-type: none"> ● 住民、行政の緑への理解不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務を遂行するにあたって落ち葉や毛虫へのクレームなど、市民の声が行政に反映されすぎているところがある。関東や関西に比べると九州は、すぐそこに緑がある、山がある、森があると感じられる所が多いので、緑に対する関心は薄いと思う。それが強剪定などの原因の一端になっているのではないかとと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● YouTube や SNS による情報発信。 ● 樹名板を付けていくという地道なものから、まずは名前を知ってもらおう、親しみをもってもらおうということが第一歩になるのではないか。 ● 子どもの教育に関しても、小さい頃から樹木ってこんなふうみんなの生活に役立っているよとか、こういう力があるんだよということを刷り込んでいく。そして、大きくなった時に、もっと緑に理解のある大人に育てているというのがよいのではないか。 ● i-Tree のように価値を見える化する必要もあるのではないか。